

1. 活動報告（事務局 記）

—3月1日（日）本日は天気もよく15名の参加で十分な活動ができました。

美濃和さんは遠く門司から、又大野さんは産後の大事な時期に参加くださいまして感謝します。

以下活動（修復）報告です。

- ① 田んぼの荒起こし準備すみ（厩肥散布、低地への泥運搬）
- ② ハス田の土手シガラ修復すみ、止水池は次回から
- ③ トイレ、材木置場の屋根かやぶき修復すみ
- ④ 湿地帯散策橋の破損箇所修復すみ

—3月19日（木）田んぼの荒耕と借用地（蕎麦田）の仕上げ耕しにて返却準備済

いずれも原田宗一会員にてトラクター運転提供

—3月21日（土）今期最後の活動結果を報告します。

- ①止水池のシガラ（須賀河内川側）設置すみ
- ②ため池ゾーンのエコアップ（スゲ、イ草）刈り取り
- ③田んぼの避け地仕上げ

2. 今後の予定（事務局 記）

◎ 見学者

◎ 行事

—4月5日（日）総会

—4月18日（土）午前：維持活動 エコアップ 止水池周囲のシガラ施工

午後：里山自然観察隊（春の観察：野草と昆虫）

3. 来訪者の声（東屋のノートより一部抜粋）

今月はありません。

4. 会員の声 「美濃和さんありがとう」（石井 隆 記）

美濃和さんが3月末で東京本社に復帰することになり、送別会が催された。「里山ビオトープ二俣瀬をつくる会」、「持世寺里山の会」、「菩提寺山里山の会」、「ビオトープ研究フォーラム」のメンバー有志総勢30人が名残を惜しみ駆け付けた。

環境アドバイザーであり見識の高い美濃和さんは6年間の間に多くの足跡を残した。中山間地の中で、人と自然とがかかわり続けることで、里山の美しい景観が作り出され維持できるという、当たり前のことを思い出させてくれた。

山の木を切り、お日さまの光が森の中に入ること、雑木林は見違えるような心癒される景観に変身することもやって見せてくれた。

ため池や湿地帯を整備・維持していくことで山口県絶滅危惧種のミズキンバイ、アサザ、トチカガミ、タヌキモ、デンジソウなどの生息も確認されるにいった。

美濃和さんとは6年間のお付き合いだったが、多くの仲間が里山の生活、現代人が忘れかけてた自然とのふれあいの大切さ、魅力を大事にしていきたいと心ひそかに誓い、はばたって行くことになるだろう。

美濃和さんありがとう、ますますのご活躍を。

5. ビオトープ関連 (ビオトープのトンボたち) (管 哲郎 記)

(10) ホソミオツネントンボ (アオイトトンボ科)

Indolestes peregrinus (Ris)

成虫で越冬するトンボ3種 (オツネントンボ、ホソミイトトンボ及び本種) の内の1種で、平地から丘陵地、山地に至る植生豊かな池沼や湿地、水田などにみられます。

羽化は年1回、6月頃よりはじまり、体色は淡褐色のまま成熟することなく越冬するとされています。越冬種はやはり枯れ草や枯れ木の色をしていて、姿をくらませてしまいます。

成虫の出現は5月～6月がピークで、水の中から突き出た植物の茎や枯れ枝などにつかまって盛んに交尾、連結産卵を行います。越冬時期以外は春先から秋の終わりにかけて、池沼を囲む山林道や水田周辺の道端などで単体で見つかることがあります。

国内では北海道、本州、四国、九州全域でみられ、国外では中国中部、朝鮮半島で見られるようです。

参考文献 杉村光俊・小坂一章・吉田一夫・大浜祥治、
2008. 中国・四国のトンボ図鑑. 255pp. ミナミヤンマ・クラブ、東京.



ホソミオツネントンボ越冬型 (♂)



ホソミオツネントンボ越冬型 (♀)



ホソミオツネントンボ 連結産卵 (4月中旬)

6. 会よりの連絡事項 (事務局より)

3月17日に日本水環境学会より「平成20年度水環境文化賞」を受賞しました。原田事務局長と観察隊の責任者の西原で山口市の山口大学で開催されました「第43回日本水環境学会年会」に参加してきました。テレビでは、TYSとKRY、新聞では、読売新聞と中国新聞と山口新聞の取材がありました。これに先立って、3月16日にNHK山口で収録があって、夕方の「ゆうゆうワイド」の中で「インタビュー：里山とビオトープの魅力」が放映されました。5分程度でしたが、里山ビオトープ二俣瀬が紹介できて良かったと思いました。

会員の美濃和さんが転勤のため、3月をもって退会されます。エコアップを始め、いろいろとお教え頂きましたことを感謝し、新しい場所（本当は家に帰られる）での今後の活躍を祈っております。

7. 編集後記

3月20日空を見上げれば、ツバメが飛んでいます、去年は2月の終わりに飛んでいました。この次期、ツバメが来るのが楽しみです、(私の基準ではツバメ=春です)すこし遅い里帰りだなと思ひ見えています・・・(でも去年が早すぎだよな?)私にとって今年は特別な春です、6年前長男と行った西表島、今年は次男とチャレンジです。今回も2人で約1週間キャンプ生活です、何をやる訳でもありません、ただ「ボンヤリ」するだけです、退屈ならばそれもGoodです。その準備に追われていますのでビオトープと関係無い事を書いてしまった事を「アタオコロイノナ」の神に誓いお詫びいたします。私にとってビオトープはいつまでもボンヤリと作業できる場所であってほしいと思います。

(若林 正治 記)

今年の1月16日に息子が生まれました。生まれたばかりの頃は泣いてミルクを飲んで、寝てばかり…。でも最近は起きている時間も長くなってきて、表情も豊かになり、「あ〜」とか「う〜」とか言うようになりました。「早く歩けるようになって、一緒にビオトープに行こうね〜。」と話しかけています。実のところは、私自身が今、家にこもりっきりのため、子供をだしにしてはやく山や川や海に出かけられるようになりたい！からなんです…。(笑)。自然が大好きで、のびやかな、たくましい男の子に育ててほしいと思います。

(大野 靖子 記)